

# 平成28年度 さいたま市立大牧小学校 自己評価書

さいたま市立大牧小学校

校長 澤田 直樹



## 1 学校の教育活動について

「生き生きした 活力のある子」を学校の教育目標として掲げ、「よく考える子 思いやりのある子 じょうぶな子 『わ』を大切にできる子」を目指す児童像とし、○基礎体力と機動力のある組織づくりの推進 ○学習指導の一層の充実 ○積極的な生徒指導の推進 ○児童が生き生きと活動できる、安心・安全な学校づくりの推進 ○ 家庭・地域・小中一貫教育ブロック校との連携強化 5つを重点目標とし教育活動を行った。

## 2 教職員及び児童（生徒）、保護者等による評価結果

### (1) 達成することができた項目

- ・肯定的評価の割合の合計が3者とも90%以上の項目

【経営方針・重点目標】【教育課程・学習指導】【学校保健】【生徒指導・教育相談】【学校安全】  
【施設・設備】

### (2) 達成することができなかった項目

- ・肯定的評価が3者の内2者で90%以下、または1者でも80%以下の項目

【教育課程・学習指導】～家庭学習の習慣化（教職員 89%、保護者 88%、児童 93%）

【その他】～中学校との連携（教職員 96%、保護者 89%、児童 80%）

～生活習慣の改善ノーテレビ・ノーゲームデーへの取組（教職員 96%、保護者 73%、児童 82%）

～新聞や本など活字に親しむ取組（教職員 97%、保護者 77%、児童への設問なし）

### (3) 児童（生徒）の学力・学習状況について（全国及び市独自の学力・学習状況調査結果を活用して）

- ・全国及び市の学力テストの過去3年間の調査結果についてまとめたところ、言語についての知識・理解・技能に課題があり、校内研修会において、教職員で情報を共有し、朝自習の時間に国語と算数の学習を位置づけ取り組んだ。
- ・全国及び市の学力テストの結果をもとに学力向上のため教育研究所の指導主事による学力向上カウンセリング学校訪問を実施し、本校は無回答率に課題があり、文章の読解力の向上、あきらめずに取り組む力を日頃より養うことを教職員で確認した。（例；読書を増やす等）

### (4) 教育課程・学習指導について（各教科等の授業に関わる評価）

- ・「児童の興味・関心を引き出して「分かる」「できる」授業を展開し、発達段階に応じた「基礎・基本」を身に付けさせる」について教職員、保護者、児童の「そう思う」「大体そう思う」を合わせた回答は90%を超えている。
- ・「児童一人ひとりのよさを見付け、努力を認めたり、励ましたりして、伸ばそうとする教育活動が展開されている」について教職員、保護者、児童の「そう思う」「大体そう思う」を合わせた回答は90%を超えている。

## 3 次年度に向けた具体的な改善策

- ・児童の体力に関して「投力」に課題があるため、体育の授業、業間休み、体育朝会等で投力に関する技能の向上を目指し取組を実施していく。
- ・全国及びさいたま市の学力テストの基礎・基本の定着が不十分なため、家庭との連携を取りながら家庭学習の習慣化を図る。
- ・新聞や本などの活字に親しむ取組が不十分なため、図書室の活用や授業において読む活動や書く活動を重点的に位置づけ、読解力の向上を目指す。
- ・基本的な生活習慣を身に付けるためにも、「早寝、早起き、朝ごはん」「ノーテレビ・ノーゲームデー」への取組を保護者に呼び掛けていく。

## 平成28年度 さいたま市立大牧小学校 学校関係者評価書

さいたま市立大牧小学校  
学校関係者評価委員長 利根澤 誠 ㊞

### 1 学校関係者評価の実施体制

#### (1) 構成人数

6名

#### (2) 実施回数

3回

### 2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

○教職員及び児童、保護者等による評価結果から、学校がよく運営されていることが分かる。大きな事件・事故等の問題もなく、とてもいい学校である。とても感謝している。

○学校公開日にだけでなく、いつでも学校が見られるようにしてあると、学校の様子が今以上に分かる。

○どのクラスも担任が授業を工夫していて、子どもたちが生き生きと活動しているので、安心して子どもを学校に通わせることができる。

○PTAがよくまとまっている。その結果、子どもたちも落ち着いている。

○地域の教育力を上手く利用している。今後も、地域との連携を継続して行ってほしい。

○毎月23日のノーテレビ・ノーゲームデーはいい取組なので、もっと活用して広めて欲しい。

○いじめに関しては、学校がきちんと解決策をとって対応している。また、不登校児童が0というのは、素晴らしい。

○基本的なマナーの指導（しつけ）は、家庭と協力し、繰り返し指導することが大切である。しかし、共働きが多くなっていて、きちんと子どもを見られていない家庭があるのも事実である。

○学力向上については、PTAが協力できることもあるはずなので、今後検討する必要がある。

### 学校関係者評価を受けた学校の対応

○肯定的評価が三者のうち二者以上で90%以下、また一者でも80%以下の項目については、次年度に向け改善策を明確にして取り組む。

○全国／市学力学習状況調査の結果を分析し、授業の改善と充実に努める。さらに、基礎・基本の一層の定着を図るため、来年度からは算数科の研究に取り組む。

○ノーテレビ・ノーゲームデーについては、日にちにとらわれなく取り組んで欲しいことや取り組んでいる家庭の声などを広報し、家庭の意識を高める。

○今後も更に、子どもたちの活動の様子が分かるように、学校・学年だより、ホームページを工夫して活用する。

○いじめに関しては、今後も教育相談や「心と生活のアンケート」等を通して、常に児童の様子を注意深く観察する。また、いじめと不登校に関しては、月1回の教育相談・特別支援校内委員会で情報を共有し、対応を組織的に行う。

○家庭と地域からの要望や意見に対しては、誠実に対応し、改善できるものは迅速に取り組んでいく。また、家庭との連絡を密に行い、連携を深める。

○校内での報・連・相・確認・見届けを徹底し、全教職員が一丸となって、保護者が子どもを安心して任せられる学校づくりを推進する。

さいたま市立大牧小学校長 澤田 直樹 ㊞